

市立

2000年（平成12年）2月10日発行

市川自然博物館

10・11月号 （通巻64号） だより

川のIV『中流部』 かんさつ



△下流側から見た国分谷。

中央が国分三叉路、その右手に国分小学校が見える。

川のIV 『中流部』

かんさつ

前回の上流部に続き、今回は中流部を紹介します。中流部は大きな谷にあたる部分で、市内の主要河川である国分川と大柏川が流れています。かつては谷底一面に水田が広がり、無数の用水路が縦横に巡らされていましたが、近年は、盛土や宅地開発、水路の暗渠化などにより、環境が大きく変貌してきました。

中流部の位置

市内の水系でいう中流部とは、上流部からの流れが合流する大きな谷の部分のことを言います。市内には2つあって、そこを流れる川の名（国分川、大柏川）にちなんで「国分谷」「大柏谷」と称されています。それぞれ松戸市、鎌ヶ谷市に端を発する長い谷で、その各所で上流部からの谷を合わせています。一般に上流、中流という一本の線で考えがちですが、実際には中流部の各所から何本もの上流部の谷が枝分かれしています。この関係は一本の樹木にたとえられていて、中流部の大きな谷を「幹谷（幹谷）」、そこから枝分かれする何本もの小さな谷を「枝谷（枝谷）」と称します。

中流部の谷は、幅が広いことが特徴です。数百mから場所によっては1kmにも及んでいて、一見するだけでは谷とは思えないような広がりを持っています。成り立ちが古く、今からおよそ数万年前の氷河期に形成された谷に起源があると考えられます。その時代にできた深く広い谷がその後の海進（今から数千年前の縄文時代）によって埋められ、現在に至

っています。V字形の大きな谷の底の部分が埋まっているので、現在のような広くて平らな谷底になったわけです。

今でこそ1本の線として描かれる国分川、大柏川の流路は、かつては広い谷底を自在に変化して流れる幾筋もの流れでした。線というよりも、谷底全体が水の通り道だったわけです。その谷底が後に一面の水田となり、近年では宅地などとしても利用されるようになりました。

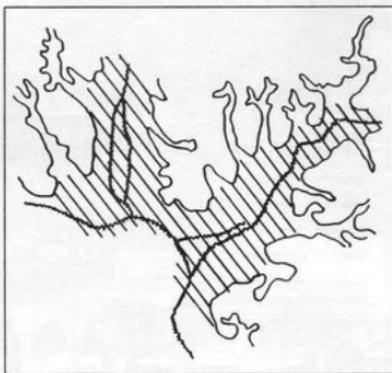


図1 中流部の位置

中流部に相当する2つの谷を斜線で示した。また、台地と低地の目安を線で示した。ギザギザ線は現在の河道。

中流部の自然

広い谷幅をもつ中流部の環境は、上流部の「谷津」とは違った特徴を有しています。すなわち、谷津においては湿地と斜面林という異質な環境が狭い範囲に共存していることが大きな特徴でしたが、中流部の場合、湿地がもつ空間的な広がりこそ特徴があります。谷津に比べると、斜面林が持つ意味合いは大きくないのです。入り組んだ環境の谷津に対して広々とした中流部というわけです。

例えば、大柏川沿いに現在整備が進められている調節池（北方遊水池）について行われた調査をまとめた資料（「生きている水辺—北方遊水池の調査と研究Ⅱ—」市川緑の市民フォーラム編、1994年）によると、この一帯ではコチドリ、タゲリ、タシギ、タヒバリ、セッカ、オオヨシキリといった野鳥が、比較的多く観察

されています。これらは、いずれも広々とした環境を好む野鳥で、市内では中流部から下流部にかけて見られます。

また、大柏川・国分川沿いの水田では、いまでもギンヤンマやシオカラトンボを見ることができます。これらのトンボも、広々とした水面を好む種類です。

空間的な広がりと同時に、広い谷底に多様な水辺が存在していることも重要です。前述の鳥類も、コチドリは裸地、タゲリやタシギは水田、セッカやオオヨシキリはアシ原と、生息する場所の環境は様々です。多様な水辺は、魚類や水生昆虫、植物などにとっても重要です。ですから、谷底の湿地が一面のアシ原になったり、まして盛土されたりすれば生物の種類は激減します。その意味では、中流部本来の自然は少なくなったと言えるかもしれません。

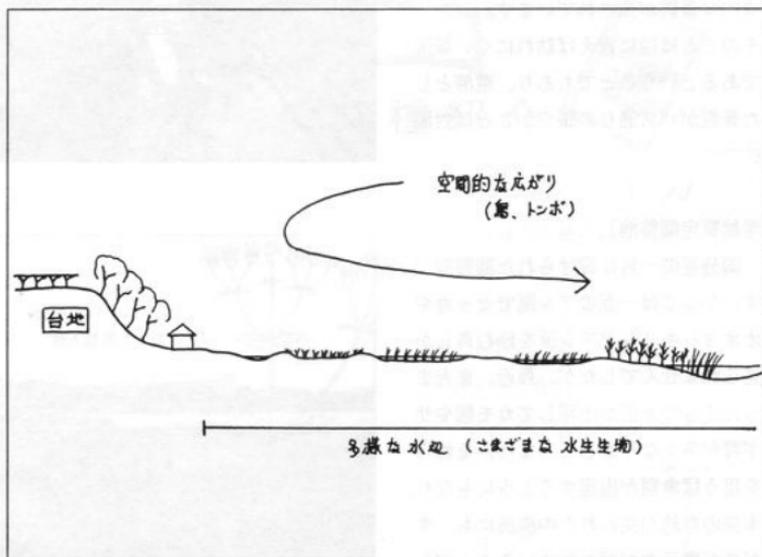


図2 中流部の環境と生物（概念図）

中流部の事例紹介

〔大柏川沿いの水田〕

大野町4丁目の大柏川沿いには、いままなお一部に水田が残り、ほかにも部分的にアシ原や湿地などが残っていて、全体として広々とした景観が保たれています。中流部がもつ空間的な広がりを経験することができる貴重な一帯です。しかし、十年ほど前までは数十羽単位で飛来したタゲリがついに1羽しか確認できなくなるなど、ここでさえも環境の変化は確実に進んでいます。



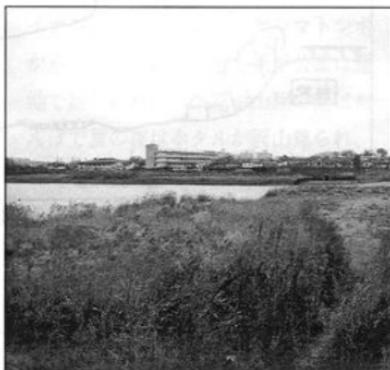
〔派川大柏川一帯〕

東菅野4、5丁目と宮久保3、5丁目の境を流れる派川大柏川は、かつての大柏川の流路が残されたものです。付近にはアシ原などの湿地帯が残り、小さな水路も多く、中流部の谷底の本来の景観が残されています。しかし、そのことは逆に言えば訪れにくい場所であるということでもあり、荒涼とした景観がバス通りの賑やかさとは対照的です。



〔稲越暫定調整池〕

国分谷の一角に設けられた調整池です。かつては一面のアシ原でセッカやオオヨシキリなどアシ原を好む鳥しか見られませんでした。最近、まとまった広さの水面が出現してカモ類やサギ類が多くなりました。また、それらを狙う猛禽類が出現するようになり、本来の自然が失われた中流部にも、まだまだ復元力が保たれていることがわかります。





街かど自然探訪

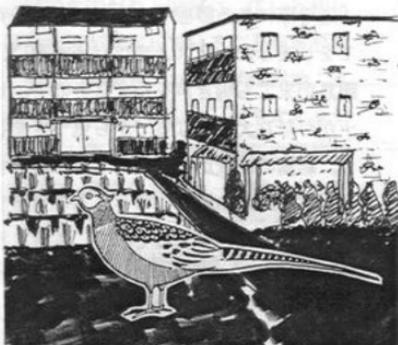
おじゃまします!

ほりのうち

堀之内・キジも住む新しい街

堀之内はかつての北国分町が町名変更して生まれた町です。3丁目では北総線北国分駅を中心に、以前一面の畑だった所にマンションや大型商店が整然と立ち並びピカピカの町が造られつつあります。

この町の住民は、もっと賑やかな場所から引っ越してきた方々がほとんどのようです。そんな新住民を驚ろかすのは、道路を横切る子連れのキジ、マンションの前から飛び立つヒバリのさえずり、駅前の電柱に留まるフクロウの姿です。



RDB レッドデータブック

掲載種紹介



フジバカマ

1mほどの高さになる草で、河原の土手に群生します。9月下旬に咲かせる薄紫色の花の美しさから「秋の七草」のひとつに数えられています。市内では江戸川の河川敷付近にごくわずかに自生しているだけです。草刈りにあたりセイタカアワダチソウなどと競合したりで、群落もなかなか大きくなりません。

花色の濃い園芸品種が市販されていますが、もちろん野生種の代わりになるものではありません。

分類
雑子植物キク科
ランク
抱茎花俱互種



『キジバトの子育て』

「道の際にある藤棚で、キジバトが子育てをしました。スズメやツバメと違い、親鳥が来ても鳴き声をたてないので、ヒナがかなり大きくなってから気づきました。給餌の回数が少ないにもかかわらずヒナはどんどん大きくなり、ある日巣立ちをしました。巣立ってみて、もう1羽ヒナがいるのが判り驚きました。ひっそりと暮らしていたので、通りすがりの人は気づかなかっただろうと思います」

(情報提供：水垣麻理子さん)



※コーナー名変更しました。



むかしの市川



このコーナーでは、博物館が1986年に行ったアンケート調査の結果から、むかしの市内の様子を紹介しています。

(原則として回答の原文のまま)

・江戸川の近くに住んでいたので、子供の頃の遊びは江戸川の堤が多かった。河川敷には、よしがたくさん生えていて、かくれんぼをしたことを覚えている。堤には、蓬やからすのえんどうなどが生えていた。(市川)

・家の近くの高石神地区には草原があり、イナゴ、バッカがおり、ヤンマトンボが飛び交っていた。現小栗原公園は蓮池で鮒が釣れた。国電中山駅の南はたんぼで夏の夜はホタルが沢山見られ、たんぼの側の溝ではドジョウがとれた。新川では釣もでき、泳ぎもできた。そして遠くに原木山のお寺の屋根がのぞまれた。(高石神)

・海辺の家だった。はすの花や、あしが多かった。(湊新田)

わたしの
観察
ノート
No.46

◆自然観察園より

- ・ツミの若いペアが来ていましたが、すぐに行ってしまいました(7/19)。
- ・湿地の中の草刈りした場所に、ヌマトラノオが出現しました(7/20)。
- ・斜面林の中でクマゼミが鳴きました。1匹でした(8/25)。

金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・林内の池を網で探ったら、ミズカマキリの幼虫がすくえました(8/7)。
- ・長距離を旅するチョウであるアサギマダラが来ていました(8/21 柏井散策会にて)。

金子謙一

◆大柏川調節池付近より

- ・タシギが2羽、来ていました(8/28)。
また、8月下旬には久しぶりにアマサギ1羽が観察されました。
- ・チュウシャクシギ、キアシシギ、ソリハシギ、メダイチドリが飛来していました。ウミネコもいました(9/1)。
- ・コガモが2羽、飛来しました(9/4)。

石井信義さん(菅野在住)

◆堀之内貝塚公園より

- ・上空高く、西へ飛ぶ2羽のサシバを見ました(8/22)。

根本貴久さん(菅野在住)

◆小塚山市民森のより

- ・シジュウカラの群れの中に、サンコウチョウ1羽(メス)が混じっていました(9/11。9/26にも確認)。
- ・シジュウカラ、コゲラ、ヤマガラ、メジロの混群の中にコサメビタキと、ムシクイ類の一種1羽が混じっていました(9/15)。

根本貴久さん

◆じゅんさい池公園より

- ・ハシビロガモ8羽がいました(9/18)。
- ・カワセミ1羽を見ました(9/26)。

根本貴久さん

◆里見公園より

- ・シジュウカラ、コゲラの混群にエナガ4羽が混じっていました(9/12)。

根本貴久さん

◆坂川旧河口より

- ・河原の草原でトノサマバツタがよく飛んでいました(9/6)。

金子謙一

◆二俣より

- ・8時26分に、二俣2丁目でクマゼミの声を聞きました(8/15)。

田中利彦さん(船橋市在住)

◎7月下旬の梅雨明け後、晴れた日が続く暑い夏となりました。



行事案内



§ 申込の必要な行事です §

自然観察会

- 親子コース…親子向けの内容で、楽しみながら自然に親しみます。
定員 先着10組
- 一般コース…大人向けの内容で、じっくりと観察し、分類や環境などについて
わかりやすく解説します。 定員 先着20名

テーマ	コース	日時	場所	受付開始
冬の野鳥	一般コース	3月12日(日)午前	北国分周辺	2月19日～

〒申し込み方法

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、行事名と参加したいコース名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

§ 申込の必要はありません § 直接会場におこしてください。

柏井散策会

市内で一番大きな雑木林を散策しながら、四季の自然を楽しみます。
申し込みは必要ありません。はじめて参加される方は、事前に博物館にお問い合わせください（交通手段等ご案内します）。

- ・日時 2月19日・3月18日（毎月第3土曜日）
午後1時30分～3時
- ・毎回のご案内は、毎月第2土曜日発行の『広報いちかわ・施設ガイド』をご覧ください。

臨時休館のお知らせ

平成12年2月22日(火)～25日(金)

展示室整備のため臨時休館いたします。
なお、動植物園、自然観察園は、平常通り開園しています。

市立市川自然博物館だより
第11巻 第4号（通館第64号）
発行日／平成12年2月10日
編集・発行／市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>